



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所に保管されていた大形のゾウクラゲの標本

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 京都大学瀬戸臨海実験所に保管されていた大形のゾウクラゲの標本. 漂着物学会会報「どんぶらこ」 2017, 57: 4-5

ISSUE DATE:

2017-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226814>

RIGHT:

許諾条件により、墨消しを施している部分があります.; 発行元の許可を得て登録しています.

京都大学瀬戸臨海実験所に保管されていた 大形のゾウクラゲの標本

久保田 信*

Giant specimen of *Carinaria cristata* deposited in the Seto
Marine Biological Laboratory, Shirahama, Wakayama
Prefecture, Japan

Shin Kubota *

*〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学
教育研究センター瀬戸臨海実験所

* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and
Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro,
Wakayama Prefecture 649-2211, Japan
kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

京都大学瀬戸臨海実験所が所蔵する様々な海洋生物標本の整理中、全長が少なくとも 55 cm の 1 個体のゾウクラゲ *Carinaria cristata* (Linnaeus, 1766) の標本が見つかった。標本整理を手伝っていた新稲一仁氏が、後端部を発泡スチロールに括り付け、直径 14 cm の円筒形のガラス容器中にほぼ真っ直ぐに伸びたまま垂直に浮かんだ体形に整え、全形がよく観察できる液浸（ホルマリン海水）標本として下さった（図 1）。

本標本には、どこでいつ誰がどの様に採集したのかラベルが入っていなかった。プランクトンに詳しい瀬戸臨海実験所第 7 代所長の時岡 隆先生は逝去されたので、この件に関してお聞きすることもかなわない。しかし、この類に詳しい奥谷喬司先生に本標本の画像をお届けした結果、次の様なお返事を頂けた：「お送り戴いた標本はまさしく *Carinaria cristata* です。体

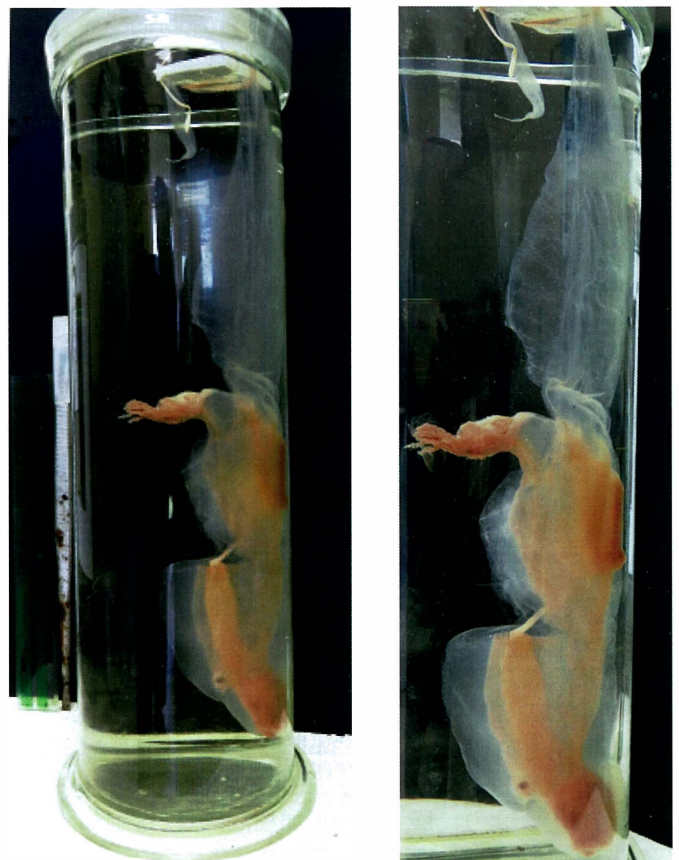


図 1 京都大学瀬戸臨海実験所が保管する巨大なゾウクラゲ標本
(左：ものさしは 30 cm 長；右：異なる角度からの撮影)

幹に色が着いているのは不自然ですが、おそらく殻ごと内臓を食いちぎられた時、肝臓が潰れて体に浸み亘ったのでしょう」。なお、原田 (2013) によると、「1942 年 2 月 25 日に本種の巨大標本が実験所付近で採集され、その体長は 1 尺 (約 40 cm) 以上」と記載されているので、本個体の可能性がある。

ゾウクラゲは太平洋の温熱帯域に分布し、日本産ゾウクラゲ科では最大種で体長 60 cm ほどに達する (日本クラゲ大図鑑 2015 での奥谷喬司先生の解説: p. 341 など)。従って、今回の標本は特大で、プランクトンネットなどで通常採集される幾つかの種に比較すると、目を見張るほど大きい。なお、東京大学三崎臨海実験所にゾウクラゲの本標本に匹敵する位の液浸の大形標本が展示されていたのをかつて実際に見たことがある。この標本や当該個体などについて、奥谷 (2015) に解説がある。

謝辞

本標本を発見し形を整えて下さった新稲一仁氏に、本種を同定しコメントを下された奥谷喬司先生に深謝致します。

引用文献

- 原田英司。2013. 瀬戸臨海実験所年誌。瀬戸臨海実験所創立 90 周年 (1922 - 2012 年) 記念文集。1-44。
- 奥谷喬司。2015. わが国近海に見られる浮遊性巻貝類—II 異足類・ゾウクラゲ科。うみうし通信, (89): 4-5。
- 峯水 亮・久保田 信・平野弥生・ドゥーグル・リンゼイ。2015. ヒメゾウクラゲ。In 日本クラゲ大図鑑, 平凡社, 東京。